

伝統を学び・引き継ぐ

小原中学校「百矢納め」武道学習

11月13日、小原公民館弓道場で、小原中学校の生徒が江戸時代から地元につながる神事「百矢納め」を体験する授業が行われました。

百矢納めは、小原地区内にある4つの神社で春と秋に行われ、約28m離れた直径1.5mの大的に矢が100本当たるまで放ち、五穀豊穰などを祈念する儀式。同校では、地元の弓道愛好会と連携して、弓道の技術と「小原百矢納め」の伝統を学習し、郷土への理解と誇りを持ってもらおうと、4年前から武道の授業に取り入れています。

この日は5回目の授業ということもあり、生徒たちはうまく的中させたり、鋭い軌道で矢を放ったりしていました。

参加した生徒は「姿勢が決まると矢がまっすぐ飛ぶことが分かりました。的に当たったときの高揚感が気持ちよかったです」と笑顔で話してくれました。



1_的に当たったときは楽しさが何倍にも感じます 2_この日3年生は弓道着を着用。堂々とした立ち姿です 3_弓道愛好会の方の指導でコツをつかんでいく生徒

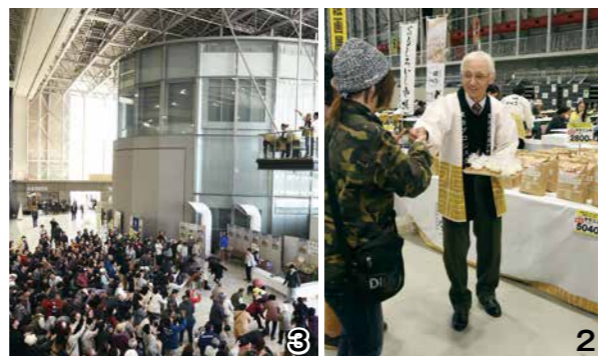
秋の恵みを満喫！

第41回白石市農業祭

11月9日・10日の両日、ホワイトキューブで農業祭を開催しました。41回目を迎えた今年の農業祭は、台風19号の影響により市単独での開催となりましたが、農家の皆さんが丹精込めて育てた秋の実りや地場産品を求めて、2日間で約24,800人が訪れました。

会場では農産物などの展示販売のほか、新米のすくい取りや甲冑の展示試着、木材を使った工作体験や特設ステージでのイベントなどを開催。2日目には、認定農業者連絡協議会による恒例の餅まきなども行われ、大きな歓声が響いていました。

物産ブースでは、姉妹都市である北海道登別市と神奈川県海老名市や、みちのく真田ゆかりの地である蔵王町と秋田県由利本荘市のほか、本市と特産品相互取扱協定を結ぶ大阪府泉佐野市の物産展が開催され、多くの人で賑わっていました。



1_ズラリと並んだ白石の新鮮野菜 2_白石産ササニシキも大好評！ 多くの人にPRしました 3_恒例の餅まき

おじいちゃんおばあちゃんと交流

白川保育園あきまつり

10月25日、白川保育園の園児と祖父母や地区老人会の方との交流会を同園で行いました。地域の方とのつながりを園児に知ってもらおうと開催したこの会では、お手玉やあや取り、コマ回しや紙ヒコーキ飛ばしなど、昔ながらの遊びを通してふれあいを楽しみました。この日の昼食には、同地区で白石産ササニシキ復活プロジェクトに取り組む佐藤良夫さんが提供したササニシキのおにぎりや豚汁などが振る舞われ、和やかな一日を過ごしていました。



▲昔ながらの遊びを一緒に楽しみました

広げよう！ ささえあいの輪

白石市福祉まつり2019

11月2日、白石市福祉まつり2019がホワイトキューブで行われました。障がいのあるなしに関わらず地域で暮らせる社会づくりを目指して開催するこのおまつりは、今年から市内の福祉施設の方々が実行委員会を結成し主催しました。会場では、車いすや手話などの体験コーナーのほか、障害者支援施設によるダンスや太鼓などのステージ発表、福祉施設や特別支援学校の皆さんが作った作品などが展示され、約1,100人の来場者で賑わっていました。



▲車いすに乗る来場者。障がいについて体験しました

走って、きれいで安全なまちに

「パトラン」で防犯・ごみ拾い活動

11月16日、市内で「パトラン」メンバーによるごみ拾い活動が行われました。パトランはパトロールランニングの略で、まちを走りながらあいさつ運動やごみ拾いなどを行う防犯活動。この日は、県内外から12人のメンバーが参加し、白石城からホワイトキューブまでの周辺約7kmの区間で、通行人と笑顔で触れ合いながら道ばたのごみ拾いをしました。

参加者は「走りながら少しでも地域の役に立てればと参加しています」と話してくれました。



▲拾ったごみを手に走るパトランの皆さん